

対象地区における鳥獣被害対策の取組方針

対象者の意向を反映し、活動の持続性を確保するため、初回の研修会（座談会）で地域課題を洗い出し、地域としての目標を立てる。下記の例を修正および追記し、取組方針を作成する。

【新城市作手黒瀬地区 地域課題の取組方針】

（例1）鳥獣被害マップを活用した生息環境管理の検討（生息環境管理）

昨年度に当該地区の住民らが作成した鳥獣被害マップを活用して、集落内の獣類の潜み場所を整理する。また、他集落の優良事例を参考に、集落内での生息環境管理に関する活動を住民らが協議する。

（例2）既設の侵入防止柵の維持管理（侵入防止）

侵入防止柵の内外に空間を設けることで獣類の潜み場所を減らし、侵入防止効果が高まることが期待される。侵入防止柵を見回りだけでなく、林縁部に設置された既設柵の内外に空間を設ける等の、既設柵の侵入防止効果を高める活動を検討する。

（例3）地区住民の捕獲技術の向上（捕獲）

当該地区で被害が大きく生息頭数が多いニホンジカ・イノシシ等の捕獲を、住民主体で実施できるよう体制を整備し、捕獲技術向上を図る。自動撮影カメラを利用し、愛知県農業総合試験場が開発した「立木ネット囲いわな」や、くくりわなによる害獣捕獲を検討する。

【北設楽郡東栄町月地区 地域課題の取組方針】

（例1）サル等を対象とした獣類の動向調査（生息環境管理）

昨年度作成した鳥獣被害マップを追記・活用し、地区及びその周辺の侵入状況や被害状況を整理する。目撃情報収集、トレイルカメラ撮影等による調査を実施し、地区の状況について情報共有を強化する。地区の状況を住民と共有した上で、環境管理についての方針を協議する。

（例2）獣類の侵入防止対策（侵入防止）

現状の侵入防止柵の設置状況と被害状況を調査する。

被害状況に応じた適切な対策の選択、既存の侵入防止柵の設置方法改善等を指導し、効果的な侵入防止対策を検討する。

（例3）サル捕獲の検討（捕獲）

地区内でのサル捕獲について、取組状況を聞き取り、実行可能な方法について検討する。止め刺しを含めた技術面でのフォローを行う。サルの被害対策として、捕獲だけでなく環境管理・侵入防止・追い払いについても総合的に検討し、今後の地区での取組として定着するよう助言をする